

事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

山口 太郎 さん

記入者 相談支援センターひまわり 相談支援専門員 中村 次郎

事例タイトル	精神科病院を退院して、初めての福祉サービスを利用しながら地域で生活する事例
相談経過の要約	<p>統合失調症を発症して同じ地元の病院に3回入退院を繰り返している。1回目は19歳の時に会話がかみ合わなくなったり不眠になったりして仕事（ラーメン屋の副店長）に行けなくなり、家族が心配して精神科病院を受診した。そのまま任意入院となったが、本人の退院希望があって1週間で退院となった。退院後は実家で父と妹2人の4人で暮らしていたが、1回受診しただけで通院治療にはつながらなかった。仕事も辞めて退院から6ヶ月後に2回目の入院。「映画スターにスカウトされている」等、非現実的な話をして家族のお金を浪費していた。パチンコや飲食、携帯ゲームの課金などに多くお金を使っていた。3ヶ月間入院して病状も落ち着いてきたので退院後、実家に帰った。自分で情報誌を見てアルバイト先を探し、居酒屋でアルバイトを始めるが1ヶ月で辞める。その後もアルバイトを転々とするがすぐに辞めてしまった。弁当屋のアルバイトは、調理補助や店頭レジなどで5時間勤務であったが、3日でやめてしまう。電話で退職の意向を伝え、すぐに3日分のバイト代を請求する。弁当屋が指定の給料日に支払うと伝えると激怒してすぐに払えと訴えることもあった。受診も退院してから1ヶ月間は通院していたがその後は行かなくなった。退院して5ヶ月後に県外（福岡）でお金を持たずに放浪して、駅近くの地下道で横になっているところを警察に保護されて、意味不明な事を言うなど病状が悪化していたため3回目の入院となった。家族は一緒に生活をする本人に振り回されてしまうのでこれ以上一緒に住めないとのこと。父も本人のために何度も欠勤したり、受験生の妹も迷惑している様子。3回目の入院で3ヶ月が経って、病状も落ち着いているので、病院のPSWが本人と退院後の生活について話し合った。その結果、本人は「3回も入院してしまって自分一人で頑張っても上手く行かない事がわかった。人に協力してもらいながら生活していこうと思っている。」と語る。そのために先日、グループホームの見学に行ったが、そこで同じ年齢くらいで総合失調症の方が暮らしていた。その方は、「将来的には一人暮らしをするためにここ（グループホーム）で練習をしている。」と言っていたのを本人が聞いて、「自分もここで（一人暮らしの）練習がしたい。」と希望された。「それと、通院と服薬も必要と思うようになった。」と話す。一人暮らしをしたことがない不安と見学時の話からグループホームが提案されている。日中の活動に関して本人は、「将来的には一人暮らしをして車を買いたい。生活保護では車を買えないので、就職して稼ぎたい。」と希望されている。今回の退院後は就労（移行・継続A型・継続B型）事業所を利用して就労訓練を予定している。そこで相談支援事業所に病院のPSWから連絡が入って支援開始となった。</p>
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	<p>年齢（21歳）・性別（男） A市で生まれて以来家族と生活してきた。</p> <p>家族構成 現在の実家は、父親と妹2人の3人暮らし。</p> <p>父：会社員。</p> <p>母：5年前に離婚して同じ市内で別居。生活保護を受けて一人暮らし。総合失調症の治療中。</p> <p>妹：高校3年生と1年生の2人</p>
手帳・区分	<p>精神障害者保健福祉手帳 なし（申請中）</p> <p>障害支援区分 2</p>

生活歴及び病歴	<p>〔生活歴〕</p> <p>A市で生まれ育つ。小中学校特に問題なく通い、地元の高校に進学。成績は普通で中学3年間と高校2年生までサッカー部だった。母は統合失調症の治療で入退院を繰り返していたが、本人が高校2年生の時に離婚して母一人で家を出て行った。その後は学校から帰宅して家族のために夕ご飯等を作るなどもしていた。卒業後は高校3年生の時からアルバイトをしていた市内のラーメン屋に就職した。この頃に自動車普通免許を取得。仕事ぶりは真面目で休む事もなく、責任をもって最後まで仕事をして残業も不満を言わないで頑張っていた。就職して1年後に副店長として新規の店舗を任されるようになった。職場の人間関係でも悩んでいたようで、「バイトが働かないし態度が気に入らない」と不満を口にしていた時期があった。料理を作ることは得意であるが、食材の発注や店の売り上げ計算、レジ関係の仕事は不得手で、売り上げ計算が合わないので、残業することがあった。父は「その事から（本人が）無口になって不眠が続いていた。かなり無理をしていたと思う。」という。そこから欠勤するようになって1回目の精神科入院となった。</p> <p>〔病歴〕</p> <p>統合失調症の病状が悪化している時は、「芸能プロダクションからスカウトされている」「俳優のCさんがテレビのドラマを通じて自分（本人）にメッセージを送っている」等の妄想があり、それらの妄想を元に後先考えずあてもなく福岡に行ってしまう事もあった。過去に通院や服薬について自己中断してしまう事が続いた。服薬を始めると状態は落ち着くが、妄想がスッキリとなくなる事はない様子。しかし、妄想に振り回されるような大胆な行動はなくなる。</p>
経済状況	<p>障害年金（申請中）</p> <p>生活保護は退院と同時に利用となる。</p>
相談に至る経緯	<p>本人の地域での暮らしを始めるための方法を考えたい</p>
望んでいる暮らし	<p>本人は、「今まで父親や家族に迷惑をかけてきたので、自立した生活をしたと思う」と将来的には一人暮らしを希望している。そのためにいきなり一人暮らしを始めるのは本人も家族も不安だし自信がないとのことなので、病院のPSWに薦められたグループホームで地域生活の経験を積んで行こうと思っていることを話してくれた。</p> <p>車が好きで以前は少し改造した車で友人達とドライブに行くのが好きだったので、また車を買ってドライブをしたいと希望されている。そのために生活保護では車を買えないので、仕事をしてお金を稼いでアパートを借りて車を買いたいとのこと。どれくらい先のことか尋ねると、本人は「1年後くらいかな」と答えた。仕事については、飲食店で仕事をしていたので、できれば飲食店で働きたいと言うが、別に他の仕事でもいいとも言う。またサッカーをしてみたいとも言われる。</p>
本人の状況と最近の様子	<p>数日前から服薬の自己管理を院内で行いはじめたが上手く出来ている。作業療法等の院内の活動にも積極的に参加している。日中は同じ病棟の患者さんと一緒に近くの喫茶店でお茶をしながら、車関係の雑誌を読んだり車の話をするのが楽しみになっている様子。</p>
その他	<p>母とはたまに連絡を取っているとのこと。かかりつけの精神科病院が同じ。退院したら母に会いたいと思っていると本人は言う。</p>

アセスメント票

記録：相談支援センターひまわり

相談支援専門員 中村 次郎

相談日時	平成30年8月1日 13時～15時
氏名等	山口 太郎 氏、21歳、男性、統合失調症
心身の状況	身長 170 cm 体重 75kg 特に問題ない。本人は最近肥満体型になってきたのを気にしている。 「GHで生活を始めたら、ダイエットを兼ねて、またサッカーをやってみたい。」と言われる。
精神面の状況	現在は落ち着いているが、病状が悪化すると妄想を元に行動を起こすことがあるので、周り の人からは変わった行動とみられることもあるとのこと。 見た目は大人しそう。父からは「本人は人に頼まれると断れないタイプ」「以前は愛想が いいので人から可愛がられていたが、病気になって暗くなった」と言われている。
生活の自立度	ADL はすべて自立している。 IADL は今まで家事をやらなくてはならない状況がなかったので、練習をすれば身体機能的には できるようになるかも。病状が悪くないと気力が出ずに出来なくなることが予想されると病院か らの情報。
気持ちの自立度	今まで福祉サービスを利用したことがないので、初めは戸惑うことがあると思われる。これまで、 自分なんとかしようとして生きてきた方なので、上手く他人に相談することに慣れていない様子。
服薬状況	入院中に服薬自己管理練習中。退院後は朝・夕・寝る前の処方予定
経済状況	<収入面> 生活保護費 <支出面> グループホームの費用 家賃 20,000 円 (家賃補助 10,000 円) 食費 20,000 円 光熱水費 12,000 円 日用品費 3,000 円 金銭管理は自分でできるが、浪費癖がある。
趣味	ドライブ・サッカー・音楽鑑賞・買い物(服)・携帯のゲーム
キーパーソン	今までは父親が全面的に支援してきた。
家族	父方母方の祖父母について、父方の祖母は県外(遠方)にいるが、意外は他界している。 祖父母には年に1回家族で会いに行っていた。
就 労	お金を稼ぎたいという思いがあり、就労への意欲は高い。これまでの職歴は、ラーメン屋を辞め て以降はアルバイトを転々としており、どれも長続きはしていない。手先が器用で丁寧な仕事が できるが集中力が続かないことが多い。現在は、1日2時間程度の作業に従事できる体力である。 自分の得手・不得手の分析ができていないが、飲食関連の仕事には興味をもっている。早起きが 苦手で生活リズムがなかなか安定しない。移動手段は主に自転車を利用しており、就労に際して の通勤手段が限られている。